

未来の翼青少年交流事業

さつま町未来の翼実行委員会（栗牧和幸会長）は、平成18年12月23日から26日の間、青少年・指導員15人を青森県鶴田町へ派遣し、地域の行事に参加するなどお互いの交流を深めました。

これは、旧鶴田町と青森県鶴田町が姉妹盟約締結を契機に交流が始まったもので、「さつま町」となった現在でもその火は絶えず、民間レベルでの交流を続けているものです。

訪問中は、全員ホームステイしながら、地元子ども会やジュニアリーダーのメンバーと共に鶴田焼き体験やスキー体験、また地元の民話に聴き入るなど、北と南の文化の違いを感じていました。

栗牧会長は「今後も民間レベルの交流を続けていきたい」と話されました。



地元子ども会などとのレクリエーション交流

12月27日、フォービステクノ㈱の大海原秀人社長から、特大ヒヨウタンが、町に寄贈されました。寄贈された特大ヒヨウタンは、大海原社長の父、大海原祥栄さん（70歳千葉県在住）の作品です。祥栄さんの作る特大ヒヨウタンは、全日本愛瓢会展示会で秋篠宮殿下の目にとまり、秋篠宮家に献上されたこともあるほど。献上作品は、重さ50kg以上あつたそうです。作品は、種抜き、乾燥、磨き、塗りなど様々な工程を経て完成されます。寄贈された特大ヒヨウタンは、役場本庁玄関ロビー展示室に展示してあります。

秋篠宮家にも献上 特大ヒヨウタンを町に寄贈



特大ヒヨウタンを寄贈する大海原秀人社長(左)

永野新町公民会 高齢者施設に向き餅つき大会

12月28日、永野区新町公民会（山峯地区）が、高齢者施設に入居している高齢者と地域との交流を深めようと、求名にある高齢者施設「グループホームのどか」を訪れ、餅つき大会を行いました。

入居者の方々は、昔懐かしい杵と臼を使って餅をついたり、手揉みをするなど交流を深めました。

また、餅つきの後は踊りも披露され、音楽に合わせて手拍子をしたり楽しい一日を過ごしました。



昔懐かしい杵と臼を使った餅つき大会

鹿児島県日経会から 図書購入費の寄付

日本経済新聞鹿児島県販売店会（会長川原建生）から県北部豪雨災害で被害を受けた図書の買い換え資金として図書カードの寄付をいただきました。

このたびの豪雨災害で被災し流失などした町図書は、現在届けがあつたもので98冊となります。

今回の寄附金では、このような本の再購入や買い換えを計画しています。本は2月中旬からみなさんに屋地楽習館図書室で貸出できるよう準備中ですので、ぜひご利用ください。



鹿児島県日経会から図書購入費を受け取る福満教育長